

## 2024. 7. 26 令和 6 年度第 1 回常務理事会 議事録

日 時 : 令和 6 年 7 月 26 日 (金) 15:00~17:40  
会 場 : 日本産科婦人科学会事務局 大会議室(ハイブリッド開催)

出席者 : 下線は Web 参加者(21 名)

理事長 : 加藤 聖子

副理事長 : 大須賀 穰、万代 昌紀

常務理事 : 岡本 愛光、梶山 広明、亀井 良政、杉浦 真弓、鈴木 直、関沢 明彦、田中 守、永瀬 智、増山 寿、吉田 好雄、

理事 : 井篁 一彦、岡田 英孝、加藤 育民、川名 敬、小林 裕明、小林 陽一、杉山 隆、谷口 文紀、横山 良仁、

監事 : 青木 大輔、木村 正、八重樫伸生

顧問 : 小西 郁生、吉村 泰典

特任理事 : 水主川 純、宮城 悦子、山本 英子、渡利 英道

専門委員会委員長 : 板倉 敦夫

副幹事長 : 小出 馨子

幹事 : 井平 圭、岩橋 尚幸、衛藤英理子、太田 剛、折坂 誠、春日 義史、小松 宏彰、杉下 陽堂、竹中 将貴、田丸 俊輔、道佛美帆子、中川 慧、中西研太郎、福原 理恵、森 繭代、森定 徹、安岡 稔晃、矢幡 秀昭、山口 建、芳川 修久

議長 : 久具 宏司、中塚 幹也

事務局 : 吉田 隆人、正宗 玄、加藤 大輔

15:00 定刻になり、理事長、副理事長、常務理事の 13 名全員が出席し定足数に達しているため、加藤聖子理事長より開会の宣言があった。なお、Web 会議システム(Zoom)を用いての開催のため、事前に参加者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたうえで議案の審議に入った。

**加藤聖子理事長**「それでは令和 6 年度第 1 回常務理事会を開催する。今回は議事録の確認はない。先日、本会事務局の働き方改革について、事務局職員の皆さんと話しをした。6/22 の第 2 回臨時理事会の時、事務局の残業時間過多の状態が慢性化しているという話があり、その後は各委員会の委員長、幹事と事務局担当者で業務量や効率化について検討していたところである。当面は実情を知る必要があると考え、暫くは理事会の場で、事務局職員の残業状況を共有することとする。」

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総務 (万代昌紀副理事長)

[ I. 本会関係 ]

##### (1) 会員の動向

- ① なかた まさお 名方 正夫 功労会員 (兵庫) が令和 6 年 5 月 31 日にご逝去された。
- ② うえだ のりたね 上田 典胤 功労会員 (長野) が令和 6 年 6 月 27 日にご逝去された。
- ③ こばやし のぼる 小林 昇 功労会員 (茨城) が令和 6 年 7 月 17 日にご逝去された。

## (2) 専門委員会

### (イ) 生殖・内分泌委員会

#### ① 会議開催

令和6年度 第1回生殖・内分泌委員会 (Web 会議)	6月24日
-----------------------------	-------

### (ロ) 婦人科腫瘍委員会

#### ① 会議開催

親委員会：

第1回婦人科腫瘍委員会 (Web 会議)	8月19日【予定】
----------------------	-----------

小委員会：

第6回絨毛性疾患取扱い規約改訂委員会 (コアメンバー会議) Web	6月25日
第7回絨毛性疾患取扱い規約改訂委員会 (全体会議) Web	7月9日

川名敬委員長 「絨毛性疾患取扱い規約の方は井篁一彦先生を中心にお纏めいただいて順調に作業が進んでいる。」

② FIGO2023 英語版を周知するため、「子宮体癌進行期分類 (FIGO2023) についてのお知らせ」を会員へのお知らせとして本会ホームページに掲載したい。【資料：専門委員会 1-1, 1-2】

川名敬委員長 「子宮体癌進行期分類 (FIGO2023) についてである。今後しばらくはこの分類には改訂がないと聞いている。そこで一旦この英語版を出したいと考えている。子宮頸がん、外陰がん時と同じ流れである。」

加藤聖子理事長 「日本婦人科腫瘍学会でもこのことに関するセッションがあった。日本病理学会の先生とお話しする機会があり、本会と日本病理学会の両学会の先生で話していく方向となった。」

川名敬委員長 「新しい分類では、病理学的に組織型、組織学的悪性度、脈管侵襲の有無で進行期が決定されるとともに、分子遺伝学的所見を加味した分類が行われる。日本に導入することを考えると、この分類は臨床的な事項より病理診断がメインで進行期を決める形である。そこで病理側からは、進行期を決めるプロセス自体を見直してほしい、従来のように日産婦が主体で病理医は部分的に参加、という形ではなく、両学会が対等に決めるべきという要望もあるようであった。」

横山良仁委員長 「鹿児島の婦人科腫瘍学会で、病理専門の先生と話した。病理の先生が言われることはもともとである。病理の先生と足並みを揃えて進行期分類を慎重に検討していくべきであろう。しかし対等という所は慎重に考えたい。進行期分類の名称をどうするか、これまで日産婦 20XX としていたがそれでいいのだろうか。」

川名敬委員長 「病理医の先生からは「日産婦 2022」などという表記はおかしいという意見もあった。」

万代昌紀副理事長 「進行期は、もともと臨床の分類ではないのか。」

川名敬委員長 「FIGO 自体も今回の流れには納得がいかないという意見もあった。」

横山良仁委員長 「とにかく両学会で喧嘩はしないように進めていくのが大切である。」

永瀬智常務理事 「今回の進行期分類の日本語訳は作成されるのか。」

川名敬委員長 「今回はまずは英語版だけ出しておく方針である。病理側の先生の人数が増えたら考えていきたい。」

万代昌紀副理事長 「日産婦登録はどうなるのか」

川名敬委員長 「未定の状況である。」

万代昌紀副理事長「後から見た時に付き合わせできるようにするなど考えておく必要があるかもしれない。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③「令和6年度 医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目」について、社会保険委員会より婦人科腫瘍委員会としてのご意見お伺いがあり回答した。」

川名敬委員長「ハーモニックについてだが、本委員会として問題なしと回答した。」

- ☆④「子宮頸癌取扱い規約 病理編 第5版（2022年12月発行1刷 5,000冊）」について、在庫が少なくなったため、今後の販売状況に鑑みて、2,000冊の増刷を行うこととする。

(ハ) 周産期委員会

- ①周産期委員会として用語集改訂第5版作成意見取りまとめ、パブリックコメントとして提出した。

板倉敦夫委員長「用語委員会に対してパブリックコメントとして意見を提出した。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①会議開催

産婦人科領域における薬剤耐性菌（AMR）対策に関する小委員会（Web会議）	7月22日
---------------------------------------	-------

②書籍頒布状況（6月30日現在）

書籍名	6月販売数	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲスチン配合薬ガイドライン 2020 電子版付	61	7,354
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	10	4,471
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用ID・PW付	29	2,122
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	8	1,511

(3) 総会の開催方法について

[資料:総務 1-1, 1-2, 1-3]

万代昌紀副理事長「久具宏司議長からご提案いただいた総会の開催についてである。これまでは学術講演会の時に臨時総会、6月下旬に定時総会と計2回の総会を2～3か月の期間に開催している。コロナ禍の緊急事態に、本会も緊急対応としてWebを併用した「ハイブリッド出席型バーチャル社員総会」という形式で総会を開催し、今年度の定時総会まで同様の形式を継続している。

しかし、既に緊急事態は解消され世の中は通常に戻っていることから、総会の開催方法を従来の会場での開催に戻すことを含め、改めて検討することにしたい。また、総会を年1回の開催にすることも検討してみたい。開催方法としては、3つの方法が考えられる。一つは従来の「会場開催（現地のみ）」、二つ目は現状の「ハイブリッド出席型」、三つ目

は「ハイブリッド参加型」であり、これは、Web で視聴は可能だが、当日の投票や、質問等の意見を述べるのが出来るのは会場出席者のみ。という開催方法である。

また、そもそも総会を年2回開催する必要があるのか。という意見については、事務局でシミュレーションしてみたところ、総会当日の諸会議もあることから、表彰も含め年1回の開催では時間的に厳しい、特に改選年度は年2回開催せざるを得ない事情があるとのことである。よって、総会は年2回行う方向で検討するが、臨時総会ではいろいろな点で簡素化したい。いずれにしても、9月の第2回理事会で方針を決定したい。」

**久具宏司議長**「加えて名誉会員、功労会員等の表彰式をいつ行うのかも検討いただきたい。現状は臨時総会の後に表彰しており、これをいつにするのか。遠方から来ている会員などは木曜の表彰式に出て、一旦地元に戻り翌日勤務して土曜日に再度学術講演会に参加するといったタイトなスケジュールとのことである。大勢が揃う総懇親会の前に表彰するのも良いのではないかと思う。」

**加藤聖子理事長**「一昨年の第74回学術講演会の時は、懇親会場とは別にして表彰式を開催した。総懇親会の会場では立食形式の為、どうしても騒がしくなってしまう。過去に、ベストレビューア賞を総懇親会会場で実施していたが、立食であったこともあり騒がしくなってしまう、現状は総会終了後に実施しているという経緯がある。表彰の会場はよく考えた方がいいと思う。」

**岡本愛光常務理事**「韓国では総懇親会の時に表彰をしているが、テーブルに着席で行っている。立食での表彰式は避けるべきと思う。」

**万代昌紀副理事長**「また事務局の方とも検討したい。総会は2回行うことを軸に、内容、開催時期を検討して次回またお話ししたい。」

本件については9月の理事会で最終決定することで、全会一致で承認された。

(4) 日本医学会連合への2024年度会費納付について [資料:総務 2]

(5) 能登半島地震に対する義援金について [資料:総務 3-1, 3-

**万代昌紀副理事長**「現在ここまで1,000万くらい義援金が集まっている。」

(6) 日本医師会あてに要望書「妊産婦の劇症型A群溶連菌(GAS)感染症罹患について貴会会員への注意喚起のお願い」を日本産婦人科医会との連名で提出した。 [資料:総務 4]

**万代昌紀副理事長**「本件は川名敬先生から後ほど纏めて案内いただく。」

(7) 「HUMAN+」に関する紛争解決案について [資料:総務 4-1, 4-2]

本件は事務局に一任することで、特に異議なく全会一致で承認された。

## [Ⅱ. 官庁関係]

### (1) 厚生労働省・こども家庭庁

①会員への周知依頼があり、ホームページに掲載し周知した。

依頼元	内容	資料
厚生労働省保険局医療課	令和6年度改定に係る疑義解釈資料(その9) 発 出のご連絡	総務 5-1

厚生労働省医薬局医療機器審査管理課	「疾病の兆候を検出し受診を促す家庭用医療機器の承認申請に当たって留意すべき事項について」の一部改正について	総務 5-2
厚生労働省医政局地域医療計画課	医療事故情報収集等事業第 77 回報告書及び 2023 年年報の公表について	総務 5-3
こども家庭庁成育局母子保健課	令和 5 年度母子保健医療対策総合支援事業(令和 5 年度補正予算)に係る QA の改正について	総務 5-4
	令和 6 年度母子保健衛生費の国庫補助について	総務 5-5
	新生児マススクリーニング検査に関する実証事業に係る外部精度管理の要件化について	総務 5-6
	「新生児マススクリーニング検査に関する実証事業」に係る国庫補助の協議について	総務 5-7
	令和 5 年度補正予算分実施要綱の改正、令和 6 年度(令和 5 年度からの繰越分) 交付要綱の発出について	総務 5-8
	令和 6 年度健やか親子 21 全国大会(母子保健家族計画全国大会) 開催等について	総務 5-9
こども家庭庁成育局母子保健課	令和 6 年 7 月 9 日からの大雨による災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 5-10
厚生労働省 感染症対策部 感染症対策課	【事務連絡】 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS) について	総務 5-11

②厚生科学審議会科学技術部会より、ゲノム編集技術等を用いたヒト受精胚等の臨床利用のあり方に関する専門委員会委員の苛原 稔先生の任期満了に伴い、委員推薦についての依頼書を受領した。後任は臨床倫理監視委員会(鈴木直委員長)より片桐由起子先生(ご内諾済み)をご推薦いただいた。 [資料：総務 6]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③厚生労働省医政局総務課より、わが国における遠隔医療の在り方について検討するため、遠隔医療の中でも主に DtoD の類型に着目した国内外の取組事例における、実施体制や効果、運用上の課題等のアンケート調査の依頼を受領した。本件は万代昌紀副理事長に回答いただいた。 [資料：総務 6-1]

④こども家庭庁成育局母子保健課

令和 6 年度健やか親子 21 全国大会(母子保健家族計画全国大会 鹿児島)への後援名義の使用依頼書を受領した。例年のことであり経済的負担もないことから応諾いたしたい。

[資料：総務 7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑤こども家庭庁長官官房少子化対策室

こども家庭庁長官官房少子化対策室より、「結婚・子育て支援信託」について本会会員への周知依頼を受領した。

[資料：総務 7-1]

<https://www.cfa.go.jp/policies/shoushika/zouyozei/>

**加藤聖子理事長**「こども家庭庁の方が事務局に来られて話を聞いた。祖父/祖母がお子さんの子育てに生前贈与できるシステムがあることの周知依頼であった。少子化対策の一環として結婚資金、不妊治療中の資金（保険適応でない不妊治療の一部にも使用可能）に使用できる。」

**万代昌紀副理事長**「このリンクに詳細が載っており、本会のホームページに掲載した。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (2) 最高裁判所

最高裁判所医事関係訴訟委員会より、千葉地方裁判所からの依頼のあった事案について鑑定人候補者の推薦依頼書を受領した。本件は鑑定人推薦委員会(亀井良政委員長)に人選をお願いしている。  
[資料：総務 8]

## (3) AMED 難治性疾患実用化研究事業

「先天性リポイド副腎過形成症の遺伝学的検査支援と患者レジストリ構築とリアルワールドエビデンス創出研究」(研究開発者代表 石井智弘先生[慶應義塾大学])に関する周知の依頼書を受領した。  
[資料：総務 9]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## [Ⅲ. 関連団体]

### (1) 日本医学会、日本医学会連合

#### ① 日本医学会連合

生物科学学会連合より「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書(改定案)」について、これまで関係学会連合等から挙げられた意見を反映した改訂案が提示され、あらためて要望書ならびに署名活動についての確認依頼があり、賛同し協力する旨回答した。  
[資料：総務 10]

### (2) 日本産婦人科医会

日本産婦人科医会より、妊産婦死亡症例検討評価委員会委員として2名の推薦依頼を受領した。(回答期限：7月31日)  
[資料：総務 11]

**万代昌紀副理事長**「周産期委員会に人選をお願いして良いか。」

**板倉敦夫委員長**「2名を選定済みである。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 予防接種推進専門協議会

7/14 開催の予防接種推進専門協議会において、日本小児科学会が、HPV ワクチンのキャッチアップ接種の再度の呼びかけをHPで行うことになり、その日本小児科学会のHPを協議会参加団体が共通でリンクを貼ることとなった。本会もHPに日本小児科学会のHPのURLを掲載する予定である。

川名敬委員長「キャッチアップ接種が今年の9月末までに打たなければならない。日本小児科学会が、HPV ワクチンのキャッチアップ接種の再度の呼びかけをHPで行うことになり、全26団体でそのリンクを貼ることになった。本会のHPにもその件を掲載したい。」

(4) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会

無痛分娩関係学会・団体連絡協議会(JALA 議長 海野信也先生)より、第15回の総会の報告と2024年度の事業計画案・予算案について本会の承認依頼があり、特に問題はなくこれを承認した。 [資料：総務 12]

(5) NPO 法人 Fine (ファイン)

NPO 法人 Fine (ファイン) よりイベント「Fine 祭り 2024 ひとりじゃないよ！妊活」への後援名義の使用および周知の依頼を受領した。例年の依頼であり経済的負担もないことから応諾いたしたい。 [資料：総務 13]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本肥満症治療学会からの協力依頼案件について

[資料：総務 14]

加藤聖子理事長「日本肥満症治療学会からにガイドラインへの協力依頼があった。昨年12月に最初の依頼があり、本会より3名の委員を選出し、当初ご内諾いただいた3名の先生方、岩佐武先生(徳島大学)、近藤英司先生(三重大学)、小川浩平先生(成育医療センター)を推薦することとした。」

(7) 日本肥満学会

日本肥満学会では、肥満症と同様に、ハイリスクの痩せ(例：骨減少症や月経異常の合併など)を「痩せ症」と定義し、新たな疾患概念の確立のために『痩せ症に関するワーキンググループ』を設置したとのこと。ついては本会からも委員参画の依頼があり、能瀬さやか先生(国立スポーツ科学センター)のご指名があった。 [資料：総務 15]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 日本産科婦人科内視鏡学会

日本産科婦人科内視鏡学会より「産婦人科内視鏡手術ガイドライン2024年版」について、後援名義の使用依頼書を受領した。2019年版に続き特に経済的負担もないことから応諾いたしたい。 [資料：総務 15-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 日本理学療法士協会

同協会が日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会と共同で作成中の「産後女性の運動器症状に対するリハビリテーションの推進(案)」にかかる内容および令和8年度診療報酬改定の要望書として提出するにあたっての進め方等について、本会の診療報酬担当者と三者で打ち合わせをしたいとの依頼を受けた。本件は社保委員会、女性ヘルスケア委員会、周産期委員会でご対応いただくこととなった。 [資料：総務 15-2]

永瀬智常務理事「社保委員会から3名、女性ヘルスケア委員会から樋口毅先生、周産期委員会から板倉敦夫先生で話を聞くために日程を調整していただいている。」

#### [IV. その他]

##### (1) メルクバイオファーマ株式会社

[資料：総務 16, 16-1]

同社よりゴナールエフ®皮下注ペン 300 の製品供給の欠品についての周知依頼があり、本会ホームページに掲載した。代替品としてゴナールエフ皮下注ペン 150、450、900 は使用可能とのことである。その後、特約店への限定出荷に変更となった旨通知があった。

##### (2) エイツー・ヘルスケア株式会社

本会が2018年に厚生労働省に要望書を提出している未承認薬「BONJESTA」に対する日本での開発について、同社が Duchesnay 社に提案するにあたり本会の意見を聞きたい旨照会があった。

[資料：総務 17]

板倉敦夫委員長「この BONJEST は悪阻の制吐薬として、2017年に北脇城先生が委員長の時社保委員会に来た話である。つわりは病気ではないということで医薬品としての適応はないと考え一度却下した。昨年10月も厚労省から本会に問い合わせがあった。診療ガイドラインに記載するかどうかはガイドライン委員会の判断になるし、個々の医薬品についての治験が来た時に臨床試験の患者のリクルートは学会主導で行うことは適切でない、と回答した。それ以降も大きな状況の変化はないので、周産期委員会としては、取り下げても良いと考える。」

万代昌紀副理事長「本会から厚生労働省に要望書を提出したということで、何度か厚生労働省から薬剤開発に協力するかとの問い合わせがあるが、そこまでの意向は無かった。このまま要望書を出したままであると、同様のことが繰り返されるので、周産期委員会としては本要望を取り下げても良いか。」

板倉敦夫委員長「商品化されれば一定のマーケットはあると思われるが、周産期委員会として今回は取り下げても良いと考える。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### (3) 株式会社カイトー

保険代理店の株式会社カイトーより、学会誌の一律郵送廃止決定に伴い、これまで年4回同梱していた各種団体保険の案内、募集に係るパンフレット、チラシを、来年以降は本会ホームページでのお知らせ、一斉配信メールで会員向けに周知して欲しいとの申請書を受領した。本件は、会員への福利厚生の一環であると同時に、本会の収入源（集金事務費）でもあることから、これを承認したい。

[資料：総務 18]

万代昌紀副理事長「学会会員が保険に加入すると集金代行の事務費がカイトーから支払われており、こちらは本会の収入源である。同梱がなくても、これまでと同額のこの事務費の支払いはしていただけるのでこれを承認したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### (4) 千葉県がん患者大集合 2024 実行委員会

千葉県がん患者大集合 2024 実行委員会より、第15回千葉県がん患者大集合 2024 「がん

と生殖医療」(10月14日)への後援依頼書を受領した。

[資料：総務 19]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (田中守常務理事)

特になし

田中守常務理事「特にありません。」

## 3) 学 術 (岡本愛光常務理事)

### (1) 学術委員会

#### ① 会議開催

令和6年度健康・医療活動賞予備選考委員会	8月7日開催 【予定】
筆記試験問題評価委員会	8月27日開催 【予定】
学術講演会評価委員会 (通信開催)	8月上中旬開催 【予定】
令和6年度教育奨励賞予備選考委員会	8月下旬 or 9月6日 【予定】
令和6年度第2回学術担当理事会	9月6日 【予定】
令和6年度第2回学術委員会	9月6日 【予定】

(2) 令和6年度健康・医療活動賞には合計8件(個人3件、団体5件)の応募があった(応募期間：2024年6月1日～6月30日)。

### (3) 他団体の特別賞推薦依頼について

#### ① 「令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(科学技術者賞、若手科学者賞及び研究支援賞)」推薦候補者について

第2回臨時理事会(6月22日)にてご承認いただき、理事および学術委員会委員より推薦された候補者について学術担当理事にて選考を行った。その結果、本会からの候補者として、以下の先生の推薦を行った。 [資料：学術 1]

- ・令和7年度 科学技術賞(研究部門)：有馬隆博(ありま たかひろ)君(東北大学) 他「ヒト胎盤幹細胞の樹立と胎盤発生機構に関する基礎的研究」

岡本愛光常務理事「文部科学大臣表彰推薦候補者であるが、令和7年度科学技術賞(研究部門)に有馬隆博君を推薦することにした。」

#### ② 「2024年度朝日賞」候補者推薦依頼を受領した。提出期限の都合上、学術担当理事会に選考をご一任いただきたい。 [資料：学術 2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ③ 中富健康科学振興財団より「令和6年度中富健康科学振興賞」候補者推薦依頼を受領した。学術担当理事にて選考を行い、第2回理事会(9月7日)に答申する。 [資料：学術 3]

(4) プログラム委員会関連 特になし

#### 4) 編集 (梶山広明常務理事)

(1) 会議開催

第1回和文誌編集会議/JOGR 編集会議 (ハイブリッド開催)	7月26日【予定】
第2回編集担当理事会 (WEB 開催)	9月6日【予定】

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: (6月30日現在)

[資料: 編集 1]

	2022	2023	2024
Pending / Withdrawn	36	47	268
Accepted	333	252	58
Rejected	1815	1513	542
<b>Grand Total</b>	<b>2184</b>	<b>1812</b>	<b>868</b>

梶山広明常務理事 「2024年はここまで868の投稿数で、昨年同様の数である。」

(3) 和文機関誌への同梱依頼について

[資料: 編集 2]

- ①9号: カイトーより  
「団体保険制度」チラシ

梶山広明常務理事 「今年中はこのチラシを同梱させていただくことで宜しいか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 和文機関誌 オンラインジャーナルへの一本化に伴う検討課題

- ①2025年発行の和文機関誌第77巻より、紙媒体は作成せずオンラインジャーナルでの公開に一本化するが、暫定的な対応として、特に重要度が高い事項を掲載した冊子を不定期で作成する予定である。詳細について和文誌編集会議ならびに編集担当理事会で検討する。

梶山広明常務理事 「オンラインジャーナルでの公開に一本化するが、主に年4回程度、特に重要度が高い事項を掲載した冊子を不定期で作成する予定である。」

(5) 和文機関誌第77巻特集について

- ①編集幹事より提案された特集案について、常務理事会前の和文誌編集会議にて検討予定である。

梶山広明常務理事 「編集会議で議論があり、PCO、帝王切開癒痕症、医学教育が特集案として認められた。」

(6) 和文機関誌8号の発送遅延について

- ①発送業者の夏季休業により、1週間程度学会誌到着が遅くなる予定である。

## 5) 渉 外 (大須賀穰副理事長)

### (1) 会議開催

第 2 回渉外委員会 (Web 開催)
---------------------

9 月 25 日 【予定】
---------------

### (2) 海外名誉会員候補者推薦について

[資料：渉外 1]

大須賀穰副理事長「Chandran 先生は本学会への実質的な貢献が大きく海外名会員に推薦したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 2025 ACOG Annual Clinical & Scientific Meeting (5 月 16-18 日、ミネソタ州ミネアポリス) へ派遣の若手医師募集に 5 名の応募があり、書類審査の結果、上位 3 名を派遣したい。

[資料：渉外 2]

大須賀穰副理事長「5 名が応募。審査の結果の上位 3 名をこの若手医師派遣に派遣したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (4) 2026 ACOG Annual Clinical & Scientific Meeting (5 月 1-3 日、於：米国 ワシントン D.C.) へ派遣の若手医師募集を開始した。(〆切：9 月 26 日)

### (5) JICA 草の根技術協力事業 カンボジア「女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的 子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」について

6 月に、加藤聖子理事長、木村正監事、矢内原臨幹事長、森繭代幹事、藤田則子医師 (長崎大学)、小原ひろみ医師、松下友美医師 (国立国際医療研究センター)、竹内理恵医師 (国際医療福祉大学) をプノンペンに派遣した。

[資料：渉外 3]

大須賀穰副理事長「これまで多くの先生方に協力いただき素晴らしい事業を展開できた。総括報告書は渉外資料 3 の通りである。」

木村正監事「長きに渡り活動できた。大変有意義な良いプロジェクトであったと思う。」

## 6) 社 保 (永瀬智常務理事)

### (1) 会議開催

第 1 回社保委員会 (Web 開催)
---------------------

7 月 23 日 (火)
--------------

永瀬智常務理事「関連学会から令和 8 年度診療報酬改定の提案を受領した。今後、本会社保委員会で調整していく。」

### (2) 日本医師会より、令和 6 年 7 月から令和 8 年 6 月末までの任期の疑義解釈委員会委員推薦

の依頼を受け、西井修副委員長を推薦した。

(3) 日本医師会疑義解釈委員会より、医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目（05 疑 3931）の検討依頼を受領し、本会理事、婦人科腫瘍委員会、および社保委員による検討結果を回答した。

(4) カリジノゲナーゼに関する企業からの依頼について [資料：社保 1]

永瀬智常務理事「循環障害改善薬であるカリジノゲナーゼの販売中止に関して、これを了承した。」

## 7) 専門医制度（関沢明彦常務理事）

(1) 日本専門医機構関連

① 会議開催

日本専門医機構 理事及び監事候補者選考委員会	6月26日
日本専門医機構 令和6年度定時社員総会	6月28日

関沢明彦常務理事「外科系診療科からということで近畿大学の松村謙臣先生が理事候補になり、6月28日の社員総会において承認され正式に理事に就任された。執行部も刷新となった。」

② 日本専門医機構からの2025年度臨床研究医コースの募集について [資料：専門医 1]

関沢明彦常務理事「基幹病院に意向を確認したところ、東京医科大学から募集したい意向があり提出している。」

(2) サブスペシャルティ関連

① 機構認定サブスペシャルティ専門医の各サブスペシャルティ学会からの申請書類を7月3日に日本専門医機構へ提出した。

関沢明彦常務理事「各サブスペシャルティ学会からの申請書類を7月3日に日本専門医機構へ提出した。現在は日本専門医機構からの返事待ちの状況である。」

(3) 学会専門医制度関連

① 会議開催

第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議	6月23日
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会(東京会場)	7月22日
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会(大阪会場)	7月22日

② 2024年度専門医認定二次審査（筆記試験、面接試験）は7月27日・28日に東京・大阪の2会場で実施する。

③筆記試験の CBT 試験について

2025 年度の専門医認定二次審査は 7 月 26 日（土）に筆記試験を CBT で実施、7 月 27 日（日）に面接試験を実施する。筆記試験は東京と大阪の近隣、面接試験は東京と大阪の 2 会場で行う。

また、CBT 試験はプロメトリック株式会社へ委託することとしたい。【資料：専門医 2】

関沢明彦常務理事「前々回の第 1 回理事会で 2025 年の二次審査を CBT で行うことが承認されている。実際は前日の 2025 年 7 月 26 日（土）に筆記試験を CBT で実施し、翌 27 日（日）に面接試験を実施する。筆記試験は東京と大阪の近隣の CBT 試験会場で、面接試験は東京と大阪の 2 会場で行う予定である。また、CBT についての委託業者選定のヒアリングを行った。A 社は受験対象者を 4 ヶ月前には決定しておく必要があるが、これは本会の 1 次審査後のスケジュールでは二次審査まで時間的に難しい。この点、プロメトリック株式会社は柔軟に対応ができるとのことであった。そこでプロメトリック株式会社に委託することで考えたい。同社であれば受験者決定からの期間内で対応ができる。同社での費用は、現地開催で本会が実施する従来より、初年度 190 万円、2 年目 70 万円ほど余分に経費がかかるが、事務準備の簡略化、実行委員の負担が大幅に軽減されるメリットがある。また同社は、日本女性医学会、日本麻酔科学会での CBT 実施の実績もあり信頼性も高いと判断。このプロメトリック株式会社との契約を承諾いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

関沢明彦常務理事「それでは 2025 年の筆記試験の会場はキャンセルすることとする。」

## 8) 臨床倫理監理（鈴木直常務理事）

### (1) 会議開催

臨時重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会（WEB）	6 月 24 日
第 1 回臨時臨床倫理監理委員会（WEB）	7 月 1 日
第 2 回 PGT に関する継続審議小委員会（WEB）	7 月 2 日
第 1 回定款・見解改定検討小委員会（WEB）	7 月 31 日

### (2) 本会の見解に基づく諸登録（令和 6 年 6 月 30 日現在）

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録	121 研究（49 施設）
体外受精・胚移植に関する登録	629 施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	629 施設
顕微授精に関する登録	609 施設
医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	204 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	16 施設

### (3) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

#### ①着床前遺伝学的検査に関する申請・認可について

【資料：臨床倫理 1, 2】

**鈴木直常務理事**「こちらの2つの資料は8月末に予定している本会が審査した審査の年次報告に関する案件である。PGT-M 審査小委員会では承認/不承認の判断が、全員一致にならなければ、PGT-M 臨床倫理個別審査会での審査が実施される。PGT-M 臨床倫理個別審査会では、医学的視点から重篤性の基準を満たすのか、申請が優生的な思想に根差していないか、社会の現状に鑑みた罹患者に対する養育・支援の状況などを考慮し、その上でPGT-M を希望する夫婦の生活背景や置かれた立場、考え方に留意して個別に審査が行われる。PGT-M に関する倫理審議会では情報公開のあり方についても議論し、PGT-M 審査小委員会ならびに PGT-M 臨床倫理個別審査会での審査結果とそれに至る議論ならびに判定のポイントなどの開示も進めていく方針となった。この8月末に疾患名と症例の数、承認、不承認の結果を公表する予定である。

審査は疾患名での判断ではなく個別の背景に留意したものであり、同一疾患であっても審査結果に相違がある。また、一度審査された申請例であっても、その家系における個別の背景に変化が生じた場合には再申請も可能としている。

ここで大切なことは、この年次報告を公表することによりマスコミ等からいろいろと数多く問い合わせがあると思われるが、その際も同一疾患であっても、審査結果に相違があるということ強調していくことである。情報公開の仕方についてもいろいろな議論がなされたが、制限は要らないという見解が多かった。特に遺伝カウンセリングに係る先生方においては、情報公開はしっかり行うべきとのご意見であった。今回、資料にある報告案についてご審議いただきたい。」

**加藤聖子理事長**「疾患名を出すことに関してもコア会議、個別審査会のメンバー、親委員会と段階を踏んで議論して来て決めたものである。」

**大須賀穰副理事長**「資料の確認だが『取扱注意』は今だけ記載されているものか。また、今回審議するのは、この報告案を公表するということは決まっていたが、公表の書式が決まっていないため、この書式で良いかというのが協議事項であるか。」

**鈴木直常務理事**「そのとおりである。」

**杉浦真弓常務理事**「不承認の症例についてはいろいろなところから質問がくると思うが、その場合には理由の説明はされるのか。」

**鈴木直常務理事**「報告書には不承認の理由を記載している。理由の詳細を書くべきか否か議論があったが、最終的にこのような記載にした。」

**加藤聖子理事長**「実際に申請を出された施設にはもっと詳細な報告をしてある。」

**鈴木直常務理事**「ここまで議論してきた PGT-M の報告のあり方について、マスコミに事前に説明することを予定している。」

**加藤聖子理事長**「マスコミの方にはこちらの意図を正しく伝えてほしいということで説明会を開く予定としている。」

**木村正監事**「大変な決断をいただき感謝申し上げます。やるべきことをしておられると思う。この資料や結果の取り扱いなど、情報管理だけはしっかりしていただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

[資料：臨床倫理 5]

(5) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

①令和6年5月30日現在の妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）、温存後生殖補

[資料：臨床倫理 6]

- ・妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）：167 施設
- ・温存後生殖補助医療実施医療機関である妊孕性温存療法実施医療機関：162 施設  
（うち、生殖医療専門医が不在のため、今年度中に生殖医療専門医が常勤となるまで引き続き暫定施設として取り扱う施設：1 施設）
- ・妊孕性温存療法は実施しない温存後生殖補助医療のみの実施医療機関：4 施設

**鈴木直常務理事**「追加でがん・生殖医療の施設認定のあり方について 9/19 に説明会を Web で行う予定である。」

(6) 保険収載を目指した PGT-A 先進医療 B について

[資料：臨床倫理 7]

**鈴木直常務理事**「令和 8 年の診療報酬の改定にむけて 2025 年の保険収載を目指した PGT-A 先進医療 B に関しては、三つのグループで、その先進医療 B を目指して進めてこられたが、そのうちの大阪大学の医学部附属病院で、2023 年 4 月から開始された先進医療 B に関しては、早期に新規症例の登録が終了したということにより、2024 年の末には、PGT-A で胚の移植とその後の追跡を終了し、データを収集するとの情報を受けた。そこで臨床倫理監理委員会では、こちらについて議論をさせていただき、令和 8 年の診療報酬の改定に向けた検討を、中央社会保険医療協議会で検討していただける状態までにするためには、2025 年度当初の薬事申請異数性検出プログラムを医療機器として薬事申請の承認を受ける必要があるため、今回、社保委員会に、我々臨床倫理監理委員会からこの資料を提出させていただいた。」

**木村正監事**「生殖医療の保険化の際に PGT-A をどうするかという話が多く出たが、いろいろな議論の末に保険化は見送られたということで、その時にかなり世論やこれを期待していた方々からの反発が厚生労働省にも来たようである。その結果厚生労働省としてもこれを保険収載にすべく正しいルートを通して申請して欲しいということで先進医療会議にかけた。ところがそれが先進医療 A で出したつもりが先進医療 B として回答があり、結構大変なことになった。幸い大阪大学の臨床研究支援部門がしっかりしていたので、そこで支援を受けてプロトコルを作り、そのプロトコルを参加される予定の施設にお配りすることができた。しかしながら、様々な問題があり、まだそこが走っていない状況である。ただ令和 8 年度の改定には、一応提出できる状況になっており、胚移植があと数件残っているというところまでできた。PGT-A までは全部提出したということを知っている。現状はそこまで進んでいるので、まずその項目の新設をしていただきたいということである。」

(7) PGT-M に関する倫理審議会の開催について

[資料：臨床倫理 8]

**鈴木直常務理事**「PGT 全般について議論する継続審議小委員会がある。来年 3 月 29 日、4 月 5 日あたりに向けて倫理審議会を開催したい。臨床倫理監理委員会規約第 4 条においては、開催には理事会の承認が必要であるため、本常務理事会においては事前に案内するものである。」

**加藤聖子理事長**「これまでの色々な問題点も次回理事会までに資料を読んでおいていただきたい。また、日本生殖医学会の件で、杉野法広理事長に鈴木直先生と私で事務局で面談し、いくつか提案を受けた。」

**鈴木直常務理事**「ART の実施施設の責任者が日本生殖医学会の専門医であることが望ましいと

いった議論とか、公的プラットフォームのことなどについて、委員の移植など日本生殖医学会との連携を提案された。」

**加藤聖子理事長**「日本生殖医学会から委嘱された委員として日産婦の関連委員会に入っていきたい、もしくは本会の各種委員会に杉野法広理事長始めオブザーバーとして何名か入っていきたいという話があった。そこで、こちらから生殖医療に関する本会の委員会のリストを送り、どの委員会に参画したいのかを聞いて、その可否を本会の理事会で諮って行くという流れを考えている。」

**鈴木直常務理事**「規約も改訂する必要がある。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 9) 教育 (増山寿常務理事)

### (1) 会議開催

令和6年度 第2回教育委員会 (WEB開催)	7月24日【予定】
用語集・用語解説集委員会 コアメンバー会議 (対面開催)	8月2日【予定】

### (2) 書籍頒布状況 (6月30日現在)

	6月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)	8	1,305
用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付)	7	1,548
2021年度専門医筆記試験過去問題・解説集	20	1,433
2022年度専門医筆記試験過去問題・解説集	27	1,262
2023年度専門医筆記試験過去問題・解説集	83	623
産婦人科専門医のための必修知識 2022	42	2,131

### (3) 専門医試験作成委員会

専門医試験問題の最終校正稿のチェックを終え印刷に入り、7月19日に納品となった。面接問題についても専門医制度委員会へ提出した。

**増山寿常務理事**「来年はCBT試験であるので、専門医試験作成委員会を組織し準備を始めた。」

### (4) 用語集・用語解説集委員会

6月3日から7月3日の期間で実施したパブリックコメント募集を締め切った。現在、各分野責任者に再校の確認、注釈へのコメント追記を依頼しており、8月2日(金)開催予定の対面会議にて進捗状況の確認やパブリックコメントでいただいたご意見について検討を行う予定である。

### (5) 産婦人科研修の必修知識編集委員会

理事会、各専門委員会(生殖・内分泌、婦人科腫瘍、周産期、女性ヘルスケア)に依頼いただいたご意見をもとに修正した目次案を確定した。また、原稿タイトル、ページ数、執筆者の検討などを委員に依頼している。8月28日に、オンライン投稿査読システム Scholar One の取扱いについて杏林舎の担当者よりご説明いただく機会を設ける予定である。

(6) 医学教育活性化委員会

8月18日(日)開催の第3回FDの募集告知を医学教育活性化委員会HP、学会HPにて掲載を開始した。11月23日(土)に第47回日本産婦人科手術学会(於:岡山)にて対面でのFD開催についても準備を進めている。 [資料:教育1,2]

(7) CST 実施評価委員会

8月9日(金)にCST事業の法人設立準備委員会のWEB会議開催を予定している。

(8) その他

ICD-11の分類の表記に用いる用語の和訳案について、オンライン会議で議論され、おおむね了解された。今後は2025年夏事に厚労大臣へ答申し、総務省より総務大臣から統計委員会へ諮問、答申後、公示され、2027年に施行の予定である。

10) 地方連絡 (杉浦真弓常務理事)

特になし

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会 (吉田好雄常務理事)

(1) 会議開催

令和6年度 第1回 女性の健康週間に関する小委員会 (WEB開催)	7月10日
令和6年度 第1回 広報委員会 (WEB開催)	7月24日【予定】

(2) JOB-NET 公募情報について

2024年4-6月の掲載施設での応募件数は0件、採用件数は0件であった。

[資料: 広報1]

(3) ホームページについて

① ホームページアクセス状況について

[資料: 広報2]

② 「産科・婦人科の病気」コンテンツ見直しについて

[資料: 広報3]

各専門委員会に見直していただいたコンテンツ案を、現在広報委員会でイラスト・参考文献・転載許諾などに関する編集作業を行っている。

吉田好雄常務理事 「p324が妊娠高血圧症候群であるが、上記の作業の一例である。」

(4) 女性の健康週間に関する小委員会

[資料: 広報4]

7/10(水)に小委員会を開催し、日本経済新聞社より今年度の女性の健康週間企画に関してご説明いただき、テーマ案について討議した。丸の内キャリアセミナーはオンライン開催を予定している。また、今回も前回同様にセミナー事後採録記事を作成する予定である。

吉田好雄常務理事「『女性の働き方』をメインとして構成していくことになった。女性が労働できない場合の経済損失なども話題になってきた。」

(5) 未来委員会内若手委員会による SNS 使用について

未来委員会若手委員会より、リクルート活動を目的とする SNS 使用が可能か、広報委員会での協議依頼があった。SNS のメリット・デメリットを十分に考慮し、未来委員会と広報委員会で、その可否や実際の運用について、慎重に検討を行っていく。

加藤聖子理事長「SNS の利用については今後も十分検討していただきたい。」

## 2) 医療制度検討委員会（亀井良政常務理事）

(1) 令和 6 年度政策科学推進研究「分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究」（研究代表者：早稲田大学政治経済学術院 野口晴子教授（専門：医療経済学））にて実施予定のアンケート調査（改定版）について

[資料：医療制度検討 1, 2]

亀井良政常務理事「分娩費用の保険化についてである。昨年 12 月にパイロット的な調査があったが、今後悉皆調査を行う予定とのことである。この調査は特に項目が多い（削減依頼後 430 項目程度）タイムスタディとして、数例の分娩の始まりから終わりまでどれくらい我々がコミットしているかを調査する必要がある。とても大変な作業となるが、エフォート率を算定するために必要とされている。日本産婦人科医会は NST が装着されている時間を全て労務時間とすることなども一案としているが、本会としても統一した対応をした方が良いのではと考える。

大須賀穰副理事長「この調査については適切な書き方を示唆していただけると良いと考える。」

亀井良政常務理事「医療安全に資する費用をどのように算出するか、日本医師会から出されるものが参考になると思う。8-9 月ころに各施設 3 例くらいという形での調査になると思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 3) 災害対策・復興委員会（井篁一彦委員長）

(1) 会議開催

第 2 回 災害対策・復興委員会（WEB 開催）	8 月下旬に開催【予定】
--------------------------	--------------

(2) 災害対応：なし

井篁一彦委員長「昨日、山形県で大雨の特別警報が出された。昨夜～本朝に山形の永瀬智先生、秋田の寺田幸弘先生に確認して、産科医療施設の機能制限につながるような事がないことを確認した。」

(3) PEACE 訓練時の利用申請：6 件

(4) 災害時小児周産期リエゾン協議会総会（7/13 開催）の活動報告

岩橋主務幹事が災害時小児周産期リエゾン協議会総会で、新 PEACE のリエゾン画面の使用  
方法の概要の説明を行い、昨年度の PEACE 訓練利用や本委員会の災害時の対応などの活動  
報告を行った。

(5) 新しい PEACE 刷新について

7 月 1 日に新システムを予定通りリリースした。

日本周産期・新生児医学会の総会(7/13)で、海野スーパーバイザーより新 PEACE について  
説明を行い、また(4)で記載の通り、災害時小児周産期リエゾン連絡協議会においても岩  
橋尚幸主務幹事より説明を行った。今後も継続的に周知を行っていく。

なお、9 月の内閣府訓練で新 PEACE の利用が予定されており、EMIS や D24H との連携に向  
けても厚生労働省等と打ち合わせを開始している。

**井篁一彦委員長**「7 月 1 日に新 PEACE システムを予定通りリリースした。一部まだ変更中  
はあるが、使用マニュアルのようなものを浸透させていきたい。」

(6) 災害時小児周産期リエゾン養成研修の研修委員推薦の依頼について

DMAT 事務局が開催する「災害時小児周産期リエゾン養成研修」の研修内容を検討する研  
修委員を推薦してほしい旨の依頼があった。検討を行い、現在の災害時小児周産期リエゾ  
ンでもある今井健史委員、児玉由紀委員を推薦した。 [資料：災害対策 1]

#### 4) 診療ガイドライン運営委員会（横山良仁学会側調整役）

(1) 会議開催

第 12 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	7 月 20 日
令和 6 年度第 1 回診療ガイドライン運営委員会（WEB 開催）	7 月 31 日【予定】
第 3 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026 評価委員会（WEB 開催）	8 月 19 日【予定】
第 4 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026 評価委員会（WEB 開催）	8 月 20 日【予定】
第 5 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026 評価委員会（WEB 開催）	8 月 21 日【予定】
第 13 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	8 月 22 日【予定】
第 6 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026 評価委員会（WEB 開催）	8 月 26 日【予定】
第 7 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026 評価委員会（WEB 開催）	8 月 27 日【予定】
第 14 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	9 月 19 日【予定】

(2) 産婦人科診療ガイドライン 2023（電子版付き書籍）販売状況

	6 月販売数	累計販売数
産科編	260	14,657
婦人科外来編	180	10,744

(3) 産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編および婦人科外来編「伝達講習会」について

4月に開催した「解説講習会」の動画を利用のうえ、各施設代表者向けとした「伝達講習会」の動画を8月中に本会HPに掲載する予定である。

## 5) コンプライアンス委員会（杉山隆委員長）

特になし

## 6) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（加藤育民委員長）

### (1) 会議開催

第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会(WEB開催)	8月26日【予定】
--------------------------------	-----------

### (2) 働き方改革開始後のアンケート調査について

第1回目の調査を7月8日（月）～7月31日（水）の期間での実施している。少しでも多くの方にご意見をお寄せいただきたく、ご協力をお願いしたい。

加藤育民委員長「現時点で725名の回答を得た。是非とも更なる回答をお願いしたい。目標は1000名以上を超えたい。」

### (3) C-2 水準審査について

令和6年度第2回審査委員会への申請を受け付けており、締切は9月25日（水）である。

## 7) 産婦人科未来委員会（谷口文紀委員長）

### (1) 会議開催

産婦人科サマースクール第2回事前会議（ハイブリッド開催）	7月5日（金）
第2回産婦人科未来委員会（WEB開催）	8月29日（木）【予定】
若手委員選考会（現地開催）	10月9日（水）【予定】

### (2) サマースクール(SS)

=====  
第18回産婦人科サマースクール

開催日程：2024年8月24日（土）～25日（日）

会場および開催形式：アートホテル大阪ベイタワー（現地開催）

内容：実技実習（分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波）、臨床推論、未来相談会

対象者：医学生5～6年生、臨床研修医1年目

募集人数：337名

チューター：68名  
=====

当初の募集人数250名を大きく上回る参加申し込みをいただいた。サマースクール開催運営補助への寄附金を募って複数の医療施設より寄附をいただいた（詳細は開催後に提示予定）。

谷口文紀委員長「費用についてはホテル代の高騰、物価高などの影響があるため、私と甲賀かを副委員長で寄附金を募って複数の医療施設より寄附をいただいた。詳細は開催後に提示予定である。」

大須賀穰副理事長「寄附を募ってのサマースクール開催は大変良い策と思った。本会理事長名での感謝状などお送りしてはいかがか。協力してくれる方には手厚くお礼をし、後に続く人も期待したい。」

谷口文紀委員長「事務局より理事長名でお礼の返信をしている。また、サマースクールの懇親会中にご寄附をいただいた各施設をスライドで紹介する予定である。継続的に同じ施設からいただくのは課題と考えている。」

加藤聖子理事長「今後の寄附のあり方を考えても良いのではないかと感じた。」

### (3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

=====  
第4回 Welcome to OBGYN World!

開催日時：2024年10月5日（土） 14:00～17:30（予定）

開催形式：ハイブリッド形式（各大学での現地参加を推奨）

対象者：医学部医学科1～4年生

募集人数：250名（予定）

参加大学・チューター：専攻医3年目～医師10年目程度（目安） 各大学2名程度

目的：産婦人科領域への興味付け、各大学の学生とチューターとの繋がりを深める

=====  
参加大学・チューター募集は8月2日（金）締切、参加者は9月6日（金）締切で現在募集を行っている。各大学からは是非ご協力をいただきたい。

### (4) スプリングフォーラム（SF）開催後のオンライン座談会

=====  
第14回スプリングフォーラムの参加者を対象に、6月30日（日）にオンライン座談会を開催した。参加後の変化について、2名の方が代表で発表を行った。

谷口文紀委員長「広島で実施した。来年は神奈川の箱根を予定している。6月30日（日）にオンライン座談会を開催して、SFについての振り返りを行った。」

### (5) Plus One Project2 (POP2)

=====  
第9回 Plus One Project2

開催日程：2025年5月10日（土）～11日（日）

会場および開催形式：パシフィコ横浜ノース（現地開催）

内 容：実技実習（分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波、ロボット）、未来相談会、講演会

対象者：臨床研修医2年目

参加者：120名（予定）

チューター：40名（予定）

=====  
次回も現地開催を予定する。

(6) 次期若手委員の募集

2年ごとの任期で活動している若手委員会委員の公募を8月中旬より開始する。詳細はホームページ等で告知する予定である。

谷口文紀委員長「倍率は2倍となっているが、やや地方からの委員が不足しているので、ご推薦を是非お願いしたい。」

8) 医療安全推進委員会（小林裕明委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和6年6月の医療事故調査制度現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

(2) 婦人科腫瘍に関する手術関連案件で医療事故調査委員会が設置された事案について、当委員会の矢幡秀昭主務幹事が外部委員として第1回調査委員会（7月6日開催）に出席した。

青木大輔監事「一施設からの事例であるのか。いろいろな施設から外部委員の派遣要請が来てしまうことを危惧するが。」

矢幡秀昭幹事「今回の事例は、一施設からの事例で麻酔科の方の問題であり産婦人科医としては妥当な医療行為をしている事例であった。」

小林裕明委員長「多数の照会があったが、日産婦として委員を派遣するという意義があるものに派遣するというスタンスでいる。」

9) 公益事業推進委員会（岡田英孝委員長）

特になし

10) 臨床研究審査委員会（小林陽一委員長）

特になし

11) 感染対策連携委員会（川名敬委員長）

(1) 会議開催

令和6年度第1回感染対策連携委員会（Web会議）	8月5日【予定】
--------------------------	----------

(2) 本会HPの「女性を脅かす感染症」に、一般向けとして、『RSウイルス母子免疫ワクチン（アブリスボ®筋注用）が接種可能となりました！』、会員向けとして、『妊婦に接種するRSウイルスワクチンについて』を掲載し、日本産婦人科医会でも会員周知を行った。また、『RSウイルス母子免疫ワクチン（アブリスボ®筋注用）を接種した妊婦への注意点』についても会員向けに掲載した。 [資料：感染対策1-1, 1-2, 2]

川名敬委員長「ワクチン接種した妊婦さんの新生児は、ワクチン接種をする必要がないの

で、そのことを新生児科の先生に伝える必要がある。母子手帳に接種シールを貼るなどして啓発活動をしている。」

**井篁一彦委員長**「安全性をインフォームすることでよいのか、任意接種なので接種を妊婦さん個々の判断とするのか、また、推奨するエビデンスはあるのか。高額なので公的援助などの財源はどうなるか、定期接種となるのか、などの声を聞くことがある。」

**川名敬委員長**「印象としては推奨する方向に傾いているが、強く推奨するとはしていない。安全性に関してのエビデンスは集まりつつある。先日アメリカから早産率にはワクチン接種に差がないという万単位のデータが出てきた。ただ、副反応の補償救済を考えるとしばらくは定期接種、全ての妊婦に接種まではならないのではないかと考えている。」

(3)AMED 鈴木班（国立感染研）における国内での Maternal immunization の認知に関する研究に参画するとともに、ファイザー「公募型医学教育活動プロジェクト助成」に日産婦学会として申請書を提出した。 [資料:感染対策 3-1, 3-2, 3-3]

**川名敬委員長**「ファイザー株式会社から啓発活動への助成の公募の件である。すでに日本産婦人科医会と日本産婦人科感染症学会が公募を得ている。本会も本委員会と周産期委員会と協力して申請を行った。採択されると2年間で1000万円の援助を受けることができる。」

☆(4)厚生労働省感染症対策部からの「劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）について（周知）」の事務連絡が2024年7月22日付けにて発出された。 [資料:感染対策 4]

**川名敬委員長**「劇症型溶血性レンサ球菌感染症による妊婦の死亡例が増加していることについての警鐘が本会のHPから発出されている。日本医師会への周知依頼も発出した。」

## 12) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会（宮城悦子委員長）

(1)10月12日（土）、TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワーにて開催のイベント「日本の未来の子宮頸がん予防に向かって」について [資料:子宮頸がん 1, 2]

**宮城悦子委員長**「HPV ワクチンのキャッチアップ接種は今年度限りであるなど、大切な情報があるので、『日本の未来の子宮頸がん予防に向かって』というタイトルでセミナーを開催する。がん検診でも、新たなHPV検査単独法に横浜市、和光市、志木市などが手を挙げている。今回のセミナーは横浜市で開催する。委員会予算が少し足りないが、横浜の産婦人科医会や各学会に助成金を募りたいと考えている。開催について承認頂ければ次回の理事会でプログラム内容の開示、理事会後の記者会見でも発表したい。」

**杉山隆委員長**「厚生労働省は、キャッチアップ接種期間は延長しないという方針なのか。」

**宮城悦子委員長**「知り得る情報では、今延長は考えていないという話であった。」

**杉山隆委員長**「延長について本会から要望を出す余地はあるか。」

**宮城悦子委員長**「延長だと28歳に接種するのかという年齢での有効性の懸念もあり、積極的にはキャッチアップの延長の要望はせず、期間内の接種を促すのが相応しいのではと考えている。短縮接種を進めて状況を見るつもりだ。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (2) 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会主催による MSD 医学教育事業助成セミナー「今改めて知ろう HPV 関連がん ノドのがんも増えています！—HPV ワクチンのキャッチアップ接種終了を間近に控えて—」（11 月 1 日、於：TKP ガーデンシティ PREMIUM 東京駅丸の内中央）を、本会として共催したい。 [資料：子宮頸がん 3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 13) サブスペシャリティー連携委員会（渡利英道委員長）

- (1) 会議開催

令和 6 年度第 2 回サブスペシャリティー連携委員会	7 月 10 日
-----------------------------	----------

- (2) 日本医学会連合の組織 COI 開示に対する本会の対応について [資料：サブスペ連携 1]

**渡利英道委員長**「5 月 7 日の日本医学会連合の研修会では 2 割くらいの学会が組織 COI を開示していた。日本アレルギー学会の組織 COI が良い事例であると紹介されていた。この点についても本委員会とコンプライアンス委員会で連携して検討していきたい。サブスペの各学会ではまだ対応していない状況である。」

### 14) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進委員会

(水主川純委員長)

- (1) 2019 年と 2023 年に行なった「リプロダクティブヘルスについてのアンケート調査」に関する原著論文が JOGR 誌に受理された。 [資料：SRHR 推進 1]

**水主川純委員長**「海野信也委員長、横山良仁委員長時代に行ったアンケートに携わっていた委員、調査にご協力いただいた先生方、梶山先生に感謝申し上げる。」

### 15) ダイバーシティ・人材育成推進委員会（山本英子委員長）

- (1) 日本、アジアの産婦人科医師を対象とした調査

① 日本の産婦人科医師とアジア各国の産婦人科学会・産婦人科医師に対して、男女共同参画の現状や意識を把握するためのアンケート調査を行う。

現在、日産婦会員向けのアンケート調査をオンライン上で実施しており、7 月 31 日が回答期限である。多くの会員からご回答いただきたい。回答結果を集約し、第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会 ダイバーシティ・人材育成推進委員会企画内で発表する予定である。

**山本英子委員長**「同様の内容の調査を AOFOG の国でも行いたいと考えている。共同研究の proposal など各種準備を進めている。できるだけ多くの国に協力いただき各国の比較もできればよいと考えている。また、女性の医師の活躍に結び付けられるような結果が得られれば良いと思っている。9 月の理事会でどの国と共同研究が行えるかなどについて承認を得たいと考えている。」

加藤聖子理事長「大変詳しいプレゼンテーションの資料を作っていただいた。AOFOG のアクションプランミーティングでプレゼンテーションしていきたいと思っている。」

### Ⅲ. その他

以上